

会 議 録

1 会議名

令和 7 年度 第 2 回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（１）報告（公開）

なし

（２）協議（公開）

- ・ 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について
- ・ 新たな自主的審議事項について
- ・ 地域協議会委員 4 区合同研修会について

3 開催日時

令和 7 年 5 月 26 日（月） 午後 6 時 30 分から午後 7 時 55 分まで

4 開催場所

中郷コミュニティプラザ ホール

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：竹内会長、陸川副会長、岡田委員、尾崎委員、鹿島委員（オンラインで参加）、桐山委員、高橋委員、竹内委員、村越委員、陸川委員、欠席 2 名
- ・ 事 務 局：中郷区総合事務所 高波所長、金井次長、朝日市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼任）、桐山地域振興班長、更山地域振興班主事、近藤総務班長、高橋産業建設業務窓口班長、早川税・市民生活班長、平原教育・文化班長

8 発言の内容（要旨）

【桐山班長】

会議の開会を宣言。

上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【竹内会長】

これより第 2 回地域協議会を開催する。

5 月 24 日（土）に中郷観光協会とさとまる学校主催でスイッチバックビアガーデンを開催した。300 人の来客があり、電車を利用して来られた人や運動会終了後に参加した地元の小学生もいた。このような機会も子どもの居場所につながると思うので継続していきたい。

さとまる学校では、市からの委託で地域支え合い事業を実施している。この度、65 歳以上の高齢者の延参加者数が 28 区の中で 1 位だったということで、表彰されることとなったため報告させていただく。

会議録の確認を村越委員と岡田委員に依頼。

各委員より報告事項はあるか。（なし）

続いて、協議に移る。(1) 自主的審議事項「中郷区型コミュニティバスのあるべき姿」について、事務局に資料 No. 1 中郷コミュニティバス「さくら号」の運行状況について説明を求める。

【桐山班長】

資料 No. 1 を基に説明。

6 月 6 日（金）にまちづくり振興会では、バスの運転手とこれまでの状況や今後の課題について打合せを行う予定。

前回の地域協議会で、乗車定員を超えた利用者が居た場合の対応について考えた方がよいという意見を、まちづくり振興会に共有した。まちづくり振興会で所有している軽自動車 1 台を運行に使えるように登録し、乗車定員を超えた場合に対応することとなった。

【高橋委員】

今報告のあったような対応策を考えていただけたのであれば問題ない。

【竹内会長】

6 月 6 日（金）のまちづくり振興会との打合せ結果も次回の地域協議会で報告いただきたい。

火曜日と木曜日に利用者が多いとのことだが、病院が目的の場合が多いのか。

【桐山班長】

病院の利用者が多く、特に新井方面の利用者が多い。

【竹内会長】

火曜日と木曜日の利用者が多い状態があるため、定員を超えた場合にしっかり対応できるように、手続等を進めていただきたい。

新しい車両が近い内に納車予定だと聞いた。納車されたら報告をお願いしたい。

【尾崎委員】

両親がさくら号を何度も利用しており、さくら号の運行に合わせてかかりつけの病院を変更した。とても便利で、運転手さんとも顔見知りとなり、希望に応じて自宅近くで降車させてもらえて助かっていると喜んでいる。

【竹内会長】

ロコミが広がっていくことで利用者も増えてくるのではないと思う。また、利用していない人の声等も聞いて紹介できればと思うので、まちづくり振興会と連絡をとりながら進めていきたい。

続いて、資料 No. 2 令和 7 年度の「子どもの い～場所開設事業」について事務局に説明を求める。

【桐山班長】

資料 No. 2 を基に説明。

【竹内会長】

い～場所開設事業については、まちづくり振興会が市から受託し、2 学期から始める予定になっている。アンケート結果を照らし合わせながら皆さんから意見をいただき、まちづくり振興会へ共有し、進め方を決めていくという流れになる。

昨年度、小学生の参加率は高かったが、中学生の参加者が 0 人だった。まず、い～場所開設事業の対象として中学生を含めるかどうか意見をいただきたい。

【陸川委員】

今の状態で考えると、中学生は対象に含めなくてもよいと思う。中学生が小学生とうまく活動ができるのかが気になる。中学生も参加してほしい思いはあるが、部活動の関係もあるので参加自体が難しいのではないかと。ただ、部活動をしていない子どもたちが参加したいということであれば問題ないと思うが、その区分けの仕方が難しいのではないかと感じている。

【竹内会長】

中学生で部活動をしていない子どもたちの情報等はあるか。

【村越委員】

部活動に入っていない子は一定数いると思うが、部活動に入っている子の方が多い印象がある。1年生は以前よりも部活動に入る子が減ってきているという話を聞いたが、実際の人数等は不明。中学生は小学生よりも帰りが遅いため、い～場所開設事業に参加する時間をとることが難しいと思う。そのため、中学生は対象でなくてもよいと考える。

【陸川副会長】

あえて中学生を対象から外すことはしなくてもよいと思うが、中学生が小学生と一緒に遊ぶというイメージがなかなかできない。かといって、中学生に小学生の面倒をみるようにとお願いすることも違うのではないかと思う。

【竹内会長】

さとまる学校で実施している「こ食」事業の際も、小学生の参加者が50人程度に対し、中学生の参加者は2人だった。その時は、中学生に小学生の見守りとして参加してもらっていたが、個人的にはそのような参加のかたちもよいのではないかと思う。もちろん中学生も自分たちのやりたいことができるということも大切だとは思う。

これまでの皆さんからの意見を受けて、初めから中学生を対象外とはせずに、呼びかけは行うということではどうか。他に意見はあるか。

【岡田委員】

皆さんの言うように、中学生を対象外とすることは反対。ただ、小学生とは遊び方なども変わってくるため、無理に参加を呼びかけるようなことはしなくてよいのではないかと考える。

【尾崎委員】

中学生のやりたいことができる環境を整えられるのであれば、参加してほしいと思う。小学生の見守りをするのであれば、中学生にとっての居場所ではなくなるのではないかと感じる。

【桐山委員】

中学校の吹奏楽部がなくなったからバトミントクラブへ来たという子の話を聞いたことがあり、中学生も居場所が必要だと感じる。

また、い～場所開設事業で企画性を持たせるかという話が以前出ていたと思うが、お楽しみ会などで中学生が仕切るなど、子どもたちが自分で考えて企画をつ

くることもよいのではないかと思います。また、学校でもお楽しみ会について話してもらうことで参加者の増加も見込めるのではないかと。

【高橋委員】

アンケート結果にあった、道具を使いたいというところを充実させ、中学生が小学生と一緒に遊ばなくても過ごせる環境や活動を取り入れたらよいと思う。

まちづくり振興会へ丸投げとならないように、地域協議会として、保護者の声の収集や、居場所の拠点化をどうするか、見守り者をどう組織化するか等を話し合い、方向性を見出していければよいと思う。

【竹内委員】

これまでは、中学生のほとんど全員が部活動に入っていたが、現在は自由参加となり、平日の3日間のみと、活動時間も短くなってきている。このことから中学生にも居場所が必要だと考える。中学生も参加できるような方法を研究していきたいと思っている。

【竹内会長】

高橋委員の発言のように、まちづくり振興会へ丸投げとはならないように、皆さんから出た意見をまちづくり振興会へ協議材料として提案し、それを基にまちづくり振興会で決定していくというスタンスは変わらない。また、拠点化の具体的な話は、新たな自主的審議事項の協議の中で改めて提案いただければと思う。

参加対象については、皆さんの意見から中学生も対象に含めるということにしたい。募集方法については、小学生と同様とするか、小学生と中学生で変えていくかはまちづくり振興会と相談しながら進めていきたいと考えている。

先ほど桐山委員より話のあった活動メニューについて、これまでは子どもたちに自由に過ごしてもらっていたが、活動メニューの設定について意見を伺いたい。

【岡田委員】

当初、い〜場所開設事業を検討した際は、自主性を尊重したいというところがあったため、現段階ではある程度フリーな方がよいのではないかと思います。

【竹内会長】

活動メニューの設定について素案がある方はいるか。

【桐山委員】

小学校の授業で行われているお楽しみ会は、自分たちでやりたいことを決めていくため、ある程度フリーな状態で実施されていると思う。まちづくり振興会の体制や開催時間を考慮すると、こちらで準備することはなかなか難しいと思うので、子どもたちが考えてできるようなものとよいのではないかと思います。

【尾崎委員】

毎回ではなく、この日は何かをしようと設定してもよいのではないかと思います。また、桐山委員の話のとおり、自分たちでこれをするために、この場所で何かやりたいというところを引き出せるとよいのではないかと。

【竹内会長】

活動メニューの設定は毎回ではなく、時々でよいと思う。

今、妙高市の e スポーツクラブと関わりがあり、放課後に小学生が e スポーツをするために集まってくると聞いた。さとまる学校の「こ食」事業でも e スポーツ体験を取り入れようと考えている。外部の力を借りるのも一つの方法だと思う。活動メニューの設定については、急いで決める必要はないため、また他に案があれば協議していく。

次に、募集と申込みについて、昨年度は 2 学期の初めに実施したが、時期や方法の改善策はあるか。

【桐山班長】

昨年度は、2 学期の初めに案内を配布し、3 月までの実施日を一括で申込み方法で募集したが、途中で申込みをしたか分からなくなってしまった保護者がいたため、11 月以降の申込案内を再度行った。

【村越委員】

昨年度と同様に、初めは一括で申込みを行い、その後追加で申込みを受け付けるという方法で問題ないのではないかと思います。

【竹内会長】

周知は早めに行う必要があるのではないかと思います。総合事務所だよりには案内を載せていたが、見ない家庭もあるため、別途チラシ等を作成し早々に案内を出した方がよい。また、一括申込みの場合、忘れてしまう等のトラブルもあったので、昨年の反省を改善したほうがよいとまちづくり振興会へ伝えようと思う。

次に開設場所について、昨年度は中郷コミュニティプラザ、中郷総合体育館、片貝縄文資料館を回っていったが、今年度はどうするか。

【陸川委員】

子どもたちが遊べればどこでも問題ないと思うが、バトミントン等をしたい場合は中郷コミュニティプラザだと難しいので体育館になると思う。冬の体育館は裸足だと寒いので、上履きを持ってきてもらうなどの対応が必要ではないか。

【竹内会長】

開設場所を 1 か所に固定するのではなく、昨年度と同様に何か所かを回るようにした方がよい。

【高橋委員】

毎回別の場所へ回るのもどうかと思うので、2 か所くらいにしぼったほうがよいのではないかな。

【竹内会長】

見守り者の声は聞いているか。

【陸川委員】

場所に関しての声は特に聞いていない。冬場は寒いという声もあるが、子どもたちは動いているので問題はないはず。勉強をする場合は、別部屋を用意する等の対応が必要だが、片貝縄文資料館だと難しいかもしれない。中郷コミュニティプラザだと冬でも暖かいが、バトミントンやボールを使った遊びができなくなる。その辺を子どもたちが考えて遊ぶことができればよいと思う。

【竹内会長】

片貝縄文資料館で開催した際に、出入り口やグラウンドの関係で見守りがしづらいという意見をいただいた。なぜ、昨年度は片貝縄文資料館を開設場所に含めたのか。

【桐山班長】

昨年度は、管理人がいる公共施設ということで、なるべく色々なところで開設してどこがよいかを確認する意味合いもあり、片貝縄文資料館でも開設した。

【竹内会長】

そのような経緯であれば、基本的には中郷コミュニティプラザと中郷総合体育館を中心に開設することとし、その他の施設を含めるかは見守り者と調整しながら決めていくこととさせていただきたい。

い～場所開設事業については、いま皆さんからいただいた意見をまちづくり振興会へ届け、まちづくり振興会で協議した内容を今後も継続的に協議していきたいと思う。

続いて、協議事項の（2）新たな自主的審議事項についてに移る。

これまでの1年間は、い～場所開設事業やコミュニティバスを中心に協議し、それが具現化している状態。今後、残りの任期の中で何を中心に協議を行うか皆さんの意見を伺いたい。

鹿島委員は、通常とは違った形態でお仕事をしており、地域協議会委員に任命された際、仕事の関係から得たことを地域に反映させたいと話していた。具体的に何か取組みを考えているか。

【鹿島委員】

私の今の仕事は、企業とだけでなく、国内・国外問わず関わった人との繋がりで成り立っている。地域においても人と人との繋がりが重要であるため、交流範囲を広めていくことができればよいと思っている。

【桐山委員】

ＵターンやＩターンの促進など移住定住の推進を協議できるとよいと思う。Ｕターンの理由として家庭の事情や親の介護だけではなく、結婚・出産、環境を変えたい、自然に触れたいというものがある。そのような人たちが来やすい環境をつくれるとよい。また、転出の理由としては、買い物・通勤・通院の不便さ、除雪の負担が大きいことなどが考えられる。

現状、中郷区外の人が中郷区の情報を得るための機会があまりないと感じている。賃貸物件、空き家情報、働く場所、生計を立てていけるかなどが見える化できるとよいと思う。藤沢と板橋に「町宿 Oranchi」という民泊施設がある。そのホームページが周辺の飲食店や観光地がまとめられていて、とても分かりやすい。ウェブページなどで中郷区の情報を発信することができるとよい。

【竹内会長】

移住定住推進プロジェクトとして、若い世代の人たちが住みやすいまちづくりについて考えていければよいと思う。

【岡田委員】

い～場所開設事業について、中学生の居場所が足りていないという課題もあるため、継続して検討していきたい。

また、自然災害について事前に検討していくのもよいと思う。中郷区は比較的自然災害の被害が少ない状況ではあるが、いつ何が起きるかわからないため、災害発生時にどのような対応が必要か事前に協議することも大切だと思う。それが住みやすさにも繋がるのではないか。

【高橋委員】

空き家対策や危険家屋への対応について、自主的審議事項の一つとして考えていく必要があると思う。空き家については桐山委員から話のあった、民泊の施設として民間事業者を活用してもらおうという方法もよいと思う。危険家屋については、5・6年前に実施した中学生とのフィールドワークのときに、壊れそうな家があつて怖いという意見があった。住みやすい中郷をキャッチフレーズに協議をするべきだと考える。

また、住民アンケートの中に高齢者の居場所についての意見もあがっているが、高齢者と意見交換をしながら改善策を検討していくことができるとよい。

【竹内会長】

危険家屋については、中郷区内も増えてきているので対応策について審議できるとよい。空き家についても民間事業所と情報交換をし、桐山委員から話のあった移住定住と結びつけながら考えていきたい。

高齢者の居場所については、さとまる学校や社会福祉協議会で行っているすこやかサロンなどで、サロンに参加すること自体が高齢者にとって張り合いになっているという話を聞く。ただ、中郷区内に住んでいるすべての65歳以上の方を受け入れる規模では、なかなか実施が難しい状態。また、サロン運営者の高齢化や老人会組織の減少などの課題があるため、高齢者の居場所の確保も必要となってくる。

【竹内委員】

先ほども話があったが、中学生を含めた居場所づくりについて、もう少し検討が必要だと感じる。今後も、部活動が縮小する方向になると、スポーツで上を目指したいという子どもたちが中郷区外の強いクラブチームへ行ってしまうという懸念がある。そうすると人口も減ってしまうので、中郷に残って住みたいと思えるような、魅力の発信について検討できればよいのではないかと思う。

【尾崎委員】

旧岡沢小学校の開放が1年に2日間だけであるため、何か有効的に施設を活用できる方法を考えたい。

また、高橋委員より話のあった高齢者の居場所について、介護が必要ない高齢者がいきいきとできるような場所がつくれたらよい。一人世帯ではない高齢者から「一人世帯だと援助を受けられていいね」という話を聞いた。老人会などが縮小しているのであれば、そういった機会を何か企画してもよいと思う。

【竹内会長】

社会福祉協議会の支援は一人暮らしの高齢者を対象としているものが多く、そうになると、夫婦で暮らしている世帯は対象外になる。やり方次第で改善していくと思うので、できることはやってきたい。

旧岡沢小学校の利用については、次の地域協議会の際に情報共有し、議論していきたい。

【村越委員】

空き家対策について検討していきたい。空き家を有効活用できれば、移住定住にも役立つのではないかと思う。

また、中学生の通学問題について検討が必要だと感じる。朝の登校の際にちょうど良い時間のバスがない、岡沢などの学校から遠い子どもたちは毎日保護者が送迎を行っているなど、通学について困っている話をよく聞いている。

もう 1 点、地域活動を運営する人材の確保についても考えたい。中郷区ではまちづくり振興会や、さとまる学校が中心となり、様々な事業が実施されている。ここ 5~10 年ほど新しい運営団体が入ってきていない状況のため、このまま続くと地域活動が存続できるかが心配。専門家にどうすればボランティア等の人材を集めることができるか、やりがいを感じてもらえるかを学び、実行していきたい。

【陸川委員】

農業も担い手不足となっている。藤沢は法人化し、10 年くらいは問題ないが、今後のことを考えると中郷区の農業自体が厳しい状況になるのではないかと思う。UターンやIターン等で中郷区に移住し、農業に従事する人が増えるのが一番よいと考える。そのために、空き家の活用や情報発信ができればよいと思う。

【陸川副会長】

中学生の居場所について考えていきたい。部活動に所属していない子どもたちの居場所がないという話を聞いている。中郷区の場合、保育園から中学校までほとんど同じメンバーで過ごしていくため、何かいざこざがあると、その後、輪に入れないという現象が起きてしまうことも考えられる。そういった子どもたちのための受け皿ができればよいと思う。

【竹内会長】

住民アンケートの結果や皆さんからの意見を受け、居場所づくりについてはもう少し議論を深めていく必要があると考える。

個人的には小・中学校の統廃合について一番心配している。仮に中郷小学校、中郷中学校が統廃合となった場合、人口が離れてしまうことが考えられる。できれば地域に学校をなくしたくないという思いがあるので、教育委員会の考えを確認した上で早めに検討していきたい。

空き家について 1 つ情報提供させていただく。家をリフォームする際の手続きが以前よりも手間がかかるようになった。屋根を変えるだけでも、確認申請が必要で、お金・時間がかかってくる。そうすると新築の方がよいという状況になってきてしまうので、そのあたりも考慮しながら空き家対策について考えられるとよいと思う。

本日皆さんから意見をいただいた自主的審議事項については、内容を整理し、ある程度絞り込みながらテーマ設定ができればよいと思う。また、7 月に実施の 4 区合同研修会で他の区の意見も聞きながら、皆さんと時間をかけて丁寧に進めていきたいと考えているので、よろしくお願いします。

続いて、資料 No. 3 地域協議会委員 4 区合同研修会について、事務局に説明を求める。

【桐山班長】

資料 No. 3 を基に説明。

【竹内会長】

開催日が7月11日（金）ということで、決定させていただいた。内容については、地域自治推進プロジェクトの関係で地域政策課から説明を受けた後、グループトークをする流れになる。

司会進行を村越委員に、各区の地域活性化の方向性については陸川副会長にお願いしてもよいか。（異議なし）また、各グループに分かれて行う意見交換では最後に発表を行う予定。発表者については後日決定させていただく。

懇親会については、参加人数によって会場を決定する。

4区合同研修会について質問・意見等はあるか。（なし）

【桐山班長】

地域政策課より、当日の資料が作成されているため、次回の地域協議会で配布させていただく。

【竹内会長】

先日、上越市合併20周年記念式典に出席した際に、板倉・牧・清里区の地域協議会長とお会いし、4区合同研修会について話をした。研修会の内容について賛同いただいているので、あわせてご承知いただきたい。

本日の協議は以上である。その他について、事務局より説明を求める。

【更山主事】

地域協議会だよりについて、編集委員と次号の発行月を決定いただきたい。

発行月について、前回の地域協議会では6月発行と決定したが、7月11日（金）に4区合同研修会が開催されるため、その内容を地域協議会だよりに掲載し、7月発行とするのがよいのではないかと考える。

【竹内会長】

編集委員は昨年度と同様としてよいか。（異議なし）

7月11日（金）に開催される4区合同研修会の内容を含めることとし、地域協議会だよりは7月に発行としてよいか。（異議なし）

【更山主事】

7月発行に向けてスケジュールの確認と掲載内容の決定を行うため、来月の地域協議会終了後に編集委員会を開催させていただきたい。

【竹内会長】

その他委員、事務局から発言はないか。（なし）

以上で、本日の地域協議会は終了とする。

9 問合わせ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165) E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。